

地域情報（県別）

全国2例目のスポーツチーム連携クリニックが誕生した背景は一武蔵野アトラスターズスポーツクリニック院長の丸野秀人氏に聞く◆Vol.1

2019年6月25日 (火)配信 m3.com地域版

東京・武蔵野市にある「武蔵野アトラスターズスポーツクリニック」は同市を拠点とする社会人ラグビーチーム「横河武蔵野アトラスターズ」を医療面でサポートする。スポーツチームの連携クリニックは日本では珍しく、2例目。構想を企画した企業、チーム、大学の3者の思惑が一致して生まれたというが、どんな経緯だったのか。院長の丸野秀人氏は「地域でスポーツに取り組む人たちの医療拠点に成長したい」と目論む。（2019年4月16日にインタビュー、計2回連載の1回目）

▼第2回は[こちら](#)

——ラグビーチームの名前が院名の中に入っていますが、このチームを医療的に支えている、という理解で良いでしょうか。

はい。横河武蔵野アトラスターズは社会人ラグビーのチームであり、現在はトップリーグの下部リーグであるトップイーストで戦っています。このチームの選手たちの医療面、特に整形外科領域におけるパートナーが当院です。「チーム全体のかかりつけ医」と言えば伝わりやすいのではないのでしょうか。



丸野秀人院長

——このようなクリニックは珍しいのでは。

そうですね。日本ではスポーツチームと密に関わるクリニックがほとんどなく、私が知る限りでは日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）に加盟する鹿島アントラーズが母体の「アントラーズスポーツクリニック」（茨城県鹿嶋市）のみです。スポーツ選手がけがなどを負った場合、選手各々がどこかの医療機関を受診するのが一般的。担当した医師がどこかのチームドクターである可能性はありますが、当院のように医師が選手の試合などに帯同しつつ、さらに選手を迎え入れる拠点も構えるケースは珍しいでしょう。

——どんな経緯で開院したのですか？

実は、アントラーズスポーツクリニックの開設を主導した企業「イービストレード」（東京都千代田区）の発案で話が進みました。同社はセキュリティ機器販売や環境ビジネスなど複数の事業を展開している企業で、その中のメディカル事業部が「プロスポーツチームには関連クリニックがあった方がいいだろう」と、アントラーズスポーツクリニックの開設を企画したと聞きます。

2015年にアントラーズスポーツクリニックが開院した後、次の一手として事業部が発案したのがラグビーチームのサポートに注力するクリニック。メディカル事業部の社員にラグビー経験者が複数いたことで話が持ち上がったそうです。いくつかのチームに声をかける中でこの話に同意したのが横河武蔵野アトラスターズで、以前からこのチームのチームドクターを務めていた私に院長就任のお誘いがありました。

私はこのお話があるまで開業したいとは思っていませんでしたが、「スポーツ医療に注力するクリニック」という同社の提案が興味深かったこと、私もラグビーを小学3年からやっていて親しんでいること、開院後も私の好きな整形外科手術をアルバイト先の病院で行うことに同社が了承してくれたこと——、こういった理由からお引き受けしました。同社には、ハード面の投資や運営などにご協力いただいています。



リハビリ機器が並ぶ同院

——改めて、クリニックのコンセプトをお聞かせください。

地域のスポーツ愛好家や選手たちを支えられるクリニックでありたいと考えています。武蔵野市は横河武蔵野アトラスターズの拠点があるだけでなく、ラグビー部のある成蹊大学やラグビースクールもあるため、都内でもラグビー人口の多い地域です。需要が高いと思われるラグビー選手たちの支援はもちろんですが、競技の種別なくスポーツを愛する方々が最初に相談する整形外科クリニックとして成長していきたいと考えています。

——そんなコンセプトを実現するためにはスタッフの質が重要だと思います。どんな風に人選を？

人選や導入する機器の選定などについては多く私に任せてもらいました。当院には現在、常勤医が私1人と非常勤医が10人、理学療法士の常勤と非常勤がそれぞれ3人、常勤のアスレチックトレーナーが1人の計18人が在籍しています。

私が特に意識したことは、医局を超えてラグビーの現場を知っている先生に協力を仰ぐことです。そもそも、私の母校の杏林大学の整形外科にはスポーツ部門がなく、スポーツ医療を通じて活躍していたのは全日本男子バレーボールのチームドクターだった林光俊先生のみ。スポーツチームと連携して医療を提供する体制はありません。

このことに杏林大学整形外科の市村正一教授（同大学医学部附属病院院長）が危惧されていました。整形外科教室に優秀な人材を集めるためにも、医局がイービストレードの発案に賛同し、地域のスポーツ振興に協力する医師を送り出すのは良いことだと判断されました。イービストレード、横河武蔵野アトラスターズ、杏林大学の3者の思惑が一致してこのクリニックが生まれたのです。

——なるほど、そんな経緯があったんですね。具体的にはどんな経歴のあるスタッフが在籍しているのでしょうか。

医師とコメディカルは皆、ラグビーを始め、アメリカンフットボールやサッカー、柔道などさまざまなスポーツのプロチームや社会人・学生チームの試合に帯同してきた人たちです。アメフト日本代表や世界柔道選手権などに帯同していた立石智彦先生やサッカー日本A代表のチームドクターだった加藤晴康先生はスポーツ医療の分野で名が知られていますし、理学療法士やアスレチックトレーナーも社会人ラグビーのトップリーグに加盟するトヨタ自動車ヴェルブリッツや社会人アメフトチームの富士通フロンティアーズ、明治大学ラグビー部などをバックアップしてきました。

スタッフが皆、スポーツの現場を知っている。つまり、チームや選手の希望を考慮しながら病気を治療したりケアしたりする難しさを知っていることが当院の大きな強みでしょう。

◆丸野 秀人（まるの・ひでと）氏

1998年に杏林大学医学部を卒業後、同整形外科教室に入局。大月市立中央病院整形外科部長や新潟手の外科研究所フェロー、佼成病院整形外科医長・リハビリテーション科部長を歴任しつつ、スポーツ医療にも注力。社会人ラグビーチーム横河武蔵野アトラスターズなどのチームドクターも務める。2018年8月、武蔵野アトラスターズスポーツクリニックの院長に就任。自身も小学3年からラグビーに親しむ。

取材・文／医療ライター庄部勇太



記事検索

ニュース・医療維新を検索

